

WEEKLY SIGNAL

2020年11月27日(金) 1552号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/30(月)	12/1(火)	12/2(水)	12/3(木)	12/4(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	△ 400	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政債	+ 7,700	△ 25,000	△ 91,000	+ 2,000	△ 8,000
資金需給	+ 7,300	△ 26,000	△ 92,000	ト ン	△ 10,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国債発行・償還(2年)	税・保険揚げ 国債発行(10年)		国債発行(30年)
オペ期日	CP等買入 補完供給	△ 4,900 + 300	共通担保(全店) 成長基盤	△ 1,400 △ 5,600	
オペスタート	ETF買入	+ 100			
(日本)	小売売上高(10月) 鉱工業生産(10月)	完全失業率(10月) 有効求人倍率(10月)	営業毎旬報告(11月30日現在)		
(海外)	ECB総裁講演 ユーロ圏財務相会議(オンライン) OPEC総会(オンライン)	米 ISM製造業景況指数(11月) ユーロ圏 製造業PMI(11月) ユーロ圏CPI(11月) 米 サンフランシスコ連銀総裁、講演	米 ベージュブック ユーロ圏 PPI(10月) ユーロ圏 失業率(10月)	米 ISM非製造業総合景況指数(11月) ユーロ圏 総合PMI(11月)	米 雇用統計(11月) 米 貿易収支(10月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は、週初480兆7,900億円から始まった。25日には国債買入オペ及び新型コロナ対応金融支援特別オペがスタートしたことで483兆6,000億円まで増加した。27日には国債買入オペ及び増額オファーされた国庫短期証券買入オペがスタートし486兆8,100億円まで増加し越週した。
無担保コールON物は、先週末の地合いを引き継いで始まった。同加重平均金利は週初24日の△0.030%から始まり26日までの間△0.031%～△0.030%で過度に強含むことなく推移した。週半ばに一部金融機関による試し取りが実施された。
ターム物は1W～2W物を中心に、主に△0.025%～△0.015%の水準で出が見られた。
来週の主な予定は、10月の鉱工業生産の公表(30日)や10月の完全失業率の公表(1日)などがあり、海外では11月の米ISM製造業景況指数(1日)や11月の雇用統計(4日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.040 ~ 0.000
TDB 3M	△0.130 ~ △0.080
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

＜CP＞

今週の入札発行総額は約1兆1,250億円で、週間償還額(約1兆2,000億円)を若干下回った。月末の大量償還(約8,900億円)に対して、新規発行は約6,600億円に止まり償還超となったが、月末日や月初スタートで製鉄業や電力業等の業態からの大型案件が見られたことから、マーケットはやや活況となった。発行残高は先週末の24兆2,882億円から、26日時点で24兆5,616億円に増加した。25日に、CP等買入オペが予定通り6,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.034%・平均落札レート△0.027%と前回(按分レート△0.055%・平均落札レート△0.034%)比で上昇した。発行レートは、先週と変わらず△0.04%～0%近辺での出合いであった。来週の週間償還額は、約850億円程度となっている。償還も少なく、落ち着いたマーケットになることを予想する。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いが中心と思われるが、CP等買入オペ見合いや新型コロナ金融支援オペ等の対象銘柄ではやや強いマイナスレートでの出合いを予想する。2

＜TDB＞

24日の6M954回債(5/25償還)の入札は、最高落札利回り△0.0987%(前回債△0.1068%)、平均落札利回り△0.1027%(同△0.1128%)となり、入札後△0.098%～△0.097%の出が見られた。27日の3M955回債(3/8償還)の入札は、最高落札利回り△0.0856%(同△0.0940%)、平均落札利回り△0.0897%(同△0.0989%)となり、入札後△0.086%～△0.084%の出が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.10%近辺、6M物が△0.10%～△0.095%のレンジ、1Y物が△0.133%～△0.125%のレンジで取引された。

＜レポ＞

足許GC取引は、週初△0.080%近辺の出合からスタート。輪番オペと国庫短期証券買入オペが重なる27日受渡の取引は、レートの低下が警戒されたものの、△0.085%近辺と小幅な低下にとどまった。短期3M物の発行日で月末越えとなる30日受渡ではレートは上昇し、△0.075%中心の取引となった。週を通して狭いレンジの出合だった。SC取引は2年408～418回債、5年137～145回債、10年340～360回債、20年169～174回債、30年59～68回債、40年12～13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。